

ホンモノの真宗門徒は、お寺と永く付き合いがあるかどうかで決まるのではない

あなたの「生きる」を支えるお寺

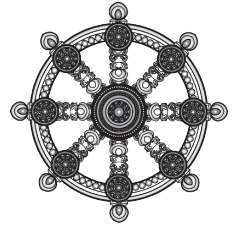
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゆんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.350



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵 (漢見覚恵)

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス :purity.temple.since1499@gmail.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

7月26日(土) 10:00~12:00
13:30~15:30

みんな
法友

こんき常例布教

お勤め 『正信念仏偈』

ご法話 愛知上組圓光寺

水上 義乗 師

この仏縁を一人でも多くの人に。お誘い合わせてお参りください。

YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル



純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞いただけます。

住職法話 我聞如星

われかくのごとくきく

遠く出遇いの宿縁をよるこぶ ⑤

私が何故、お念仏に生きるようになったのか

本当の得度やね

病院に到着して控え室で待っていると、医師から「ご本人とご家族と、ご一緒に説明を聞かれますか。それとも別々に聞かれますか」と尋ねられました。これはただ事ではないと感じた母と私は、一緒に説明を聞くことを選択しました。

説明の内容は「検査の結果、肺にある腫瘍は悪性、すなわち肺がんです。しかも、すでに脳に無数に転移しており、リンパ節への転移も見られます。したがって、手術ではなく抗がん剤

と放射線治療を行います」というものでした。医師は

遠回しにおっしゃいましたが、それは「もう手遅れで、手術をしてもどうにもならない」という意味でした。父の往生からまだ六年しか経っていないのに、「ガンにならないための十ヶ条」を忠実に守って生活していた母なのに、その母が末期がんだというのです。私は愕然としました。

しかし、この事実を一番冷静に受け止めていたのは、母本人でした。母は、抗がん剤治療が始まると頭髪が

抜けてしまうことを医師から聞いて、そうなる前に先にバリカンで髪を刈って欲しいと私に言いました。母の言う通りにバリカンで髪を刈っていると、母は「私は、得度する時に剃髪をしなかつたので、今が本当の得度やね」と言いました。

消える前のろうそく

それから数ヶ月の治療のうち、母はこれ以上病院でできることはないというところで退院しました。入院治療中に体力を失ってしまつた母は、回復を図るために「五月の蓮如上人の五百回遠忌法要にお参りできるように頑張るわ」と目標をたて、

栄養をとりながらのリハビリに精を出しました。そして五月には、目標にしていた御本山への法要参拝を、ご門徒と共に果たしました。

そして、暑い夏をなんとか乗り切つた十月。自坊の報恩講の時には、母はかなり体力の回復も見られて、病気の前のように法要を勤めることができたのです。

母は、嬉しさのあまり「私、治つたのかなあ」と口にしました。しかし、それはまるで消える直前に急に明るく灯るろうそくの炎のような状態だったのでした。

十一月になると母の状態は坂を転げ落ちるかのようになり悪化の一途をたどりました。体の表面のあちこちにピンポン玉くらいの大

きさのこぶができて痛み出しました。リンパ節への転移が進んだためでした。そして、次第に左半身にまひが出てきたのです。それは、転移した脳腫瘍が悪化して、脳神経を圧迫したからでした。

死を受け止めて

すると、母が突然こんなことを言い出したのです。「彦根組内のいくつかのお寺の報恩講にお参りがしたい」と。それまで、組内のお寺の報恩講にお参りしたことなど一度もなかった母でしたので、その理由を尋ねると、母は「特にお世話になったお寺に、今生最後のご挨拶に行きたいの」と

言ったのでした。

通常、このようなことを家族が言う、「何を行っていいの。まだまだ大丈夫だよ」と励ますのかもしれない。しかし、母と私はその病状についての情報を全て共有していましたし、母自身の病や死に対する強い自覚と覚悟も感じていた。たので、嘘をつくことも下手な慰めをすることも母には通じないと思いました。なので、母の言う通り、母が指定したお寺の報恩講に母を背負ってお参りしました。本堂でのお参りが終わると、庫裡に連れて行って欲しいと母が言うので連れて行くと、出迎えてくださったご住職と坊守さんに

「長らくお世話になりました。ありがとうございます。ありがとうございました」と挨拶をした母でした。そして十二月に入ると、母はついに全身に力が入らない状態になりました。その頃、毎月一日には仏教婦人会の例会が開催されました。母は、女性門徒さんたちに最後のお礼が言いたいからと、背負って本堂に連れて行って欲しいと言いました。母の言う通りに本堂に連れて行くと、母は女性門徒さんたちと涙を流しながら、今生のお別れの言葉を交わしたのでした。

臨終勤行

間も無く母は、寝たきりの状態になり、眠ることが多くなりました。ただ、

幸いに母はその思い通りに自宅で介護する体制が整いましたので、私も家族と共にいつも母のそばにいたいことができました。

往生の三日前。たまたま目を覚ましていた母に、私は「臨終勤行をお勤めしようか」と言いました。臨終勤行とは、今生最後に阿弥陀様と皆様にお礼を込めてするお勤めのことです。母が静かに頷きましたので、私が母に代わってお内仏で『仏説阿弥陀経』をお勤めさせていただきました。

そして、平成十年十二月十九日、子や孫家族皆に看取られて、母は五十五年の生涯を終えて、お浄土に往生させていただいたのです。

次号に続く



7月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ 一、六九三、二四八個

梅雨に入ったかと思つたら、いきなり真夏日・猛暑日の毎日に、身体が悲鳴をあげています。今月は、四六〇〇個のキャップをお預かりいたしました。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

5日(土)・12日(土)

10:00~12:00

就学前・小・中学生対象

「らいはいのうた」のお勤めと住職による仏典童話の読み聞かせ。おやつやフリータイムもあります。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

20日(日)・27日(日)

16:00~18:00

小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。休憩時には、おやつもあり。

みんなの食堂ビハーラ

9日(水)・23日(水)

17:00~19:00

年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

13日(日)

18:00~20:00

年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

1日(火)・8日(火)・15日(火)

10:20~11:30

年齢・性別は問いません

お香とオルゴールの音色の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

「月例法話座談会」

17日(木)

14:00~16:00

年齢・性別は問いません

日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません

生きることが辛くなる前に、早めに気軽にご相談下さい。

相談予約専用電話番号は、

090-7874-2849

相談予約専用メールアドレスは namo-yorozu@docomo.ne.jp

みんな法友こんき常例布教

26日(土)

10:00~12:00.13:30~15:30

年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えた気楽なご法座です。ご法話は、愛荘町圓光寺の水上義乗師です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50

年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。

ご往生

六月二十日

法名 釋 慧力

俗名 溝上 節子 さん

行年 五十七歳

慧力さんは、四年前に浄土真宗の教えに関心をもち、持たれて純正寺にお聴聞に来られるようになりました。その後、寺連研に二年間通われ、昨年純正寺門徒会に入会されました。本願寺での中央教修にも、参加したいと希望されていた中でのご往生でした。時間は短かかったかもしれませんが、本当の真宗門徒としてご往生されました。謹んでお念仏申し上げます。南無阿彌陀仏

